

## 編集後記

◇「現代宗教研究」第十二号をお届けいたします。今年度の現宗研における研究活動の一端をまとめたものです。

◇今号は、新宗教研究・教化研究を二本の柱とし、あわせて第十回中央教化研究会議の報告要旨を掲載しました。

◇新宗教諸教団の現状を把握することは、日蓮宗の課題を明らかにする上でも重要な研究です。中濃教篤師の本門仏立宗における歴史の変遷を論じた一文は、法華・日蓮系新宗教団の内実をほりさげたもので、近代日蓮教団史の動向を再検討していく上で示唆を与えています。また、公開研究講座で発表した創価学会の現状は、同会に内在している根本的な問題を指摘したものです。また天理教の指導者の一人である岡田芳来氏より「天理教の後継者問題」の一文をいただきありがとうございます。後継者問題は日蓮宗の直面している課題でもあります。今後、

ひろく宗教諸教団のかかえている後継者育成の課題を考える問題提起としてうけとめたいと思います。

◇教化研究は、寺院・教団・教師・教化・教育論などの側面を具体化する研究活動です。日蓮宗の現実的問題状況とさり結ぶことなしに真の研究はありえない、という立場から本誌では一貫して追求してきました。今後では三田村竜全師より寺院論に関する序言を述べてもらいました。新問智照師の僧侶教育論は、さきの後継者問題と関連しながらその方向を全体的に見通したもので、法器養成のあり方を考える指針を提示しています。『茗谷学園一覽』の紹介内容とあいまつて、日蓮宗の教育活動における成果を継承しながら、現時点から将来に向けての子弟教育を展望していく研究を、教研会議やカリキュラム委員会などで積み重ねていくことが必要でしょう。◇今や教団論・寺院論・僧侶論・教化論・教育論などの教化研究をまとめていくべき時にきています。ひき続き本誌では、教化研究の体系化をめざし、その基礎をきざしていく研究を掲載していきたいと考えております。